



2022年3月期 第2四半期 決算説明資料

2021年11月8日

住友ベークライト株式会社
代表取締役社長 藤原 一彦

2022年3月期（2021年度）
第2四半期 決算概要

2022年3月期 第2四半期 連結業績 (前年同期比)

(金額単位：億円)

	2021年3月期 第2四半期 実績①	2022年3月期 第2四半期 実績②	前年同期比較	
			金額 (②-①)	増減率
売上収益	902	1,283	381	42.3%
事業利益	48	137	88	181.7%
営業利益	39	135	96	243.3%
当期利益	32	103	71	224.8%

※「事業利益」は「売上収益」から「売上原価」、「販管費及び一般管理費」を控除したベース

「当期利益」は親会社所有者に帰属する四半期利益

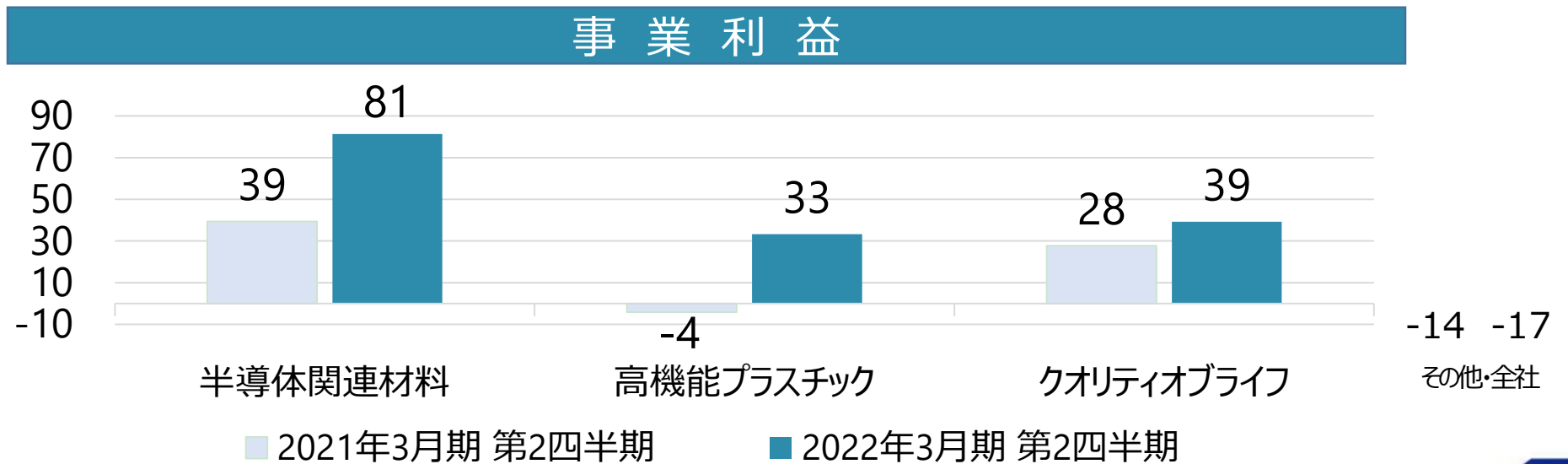
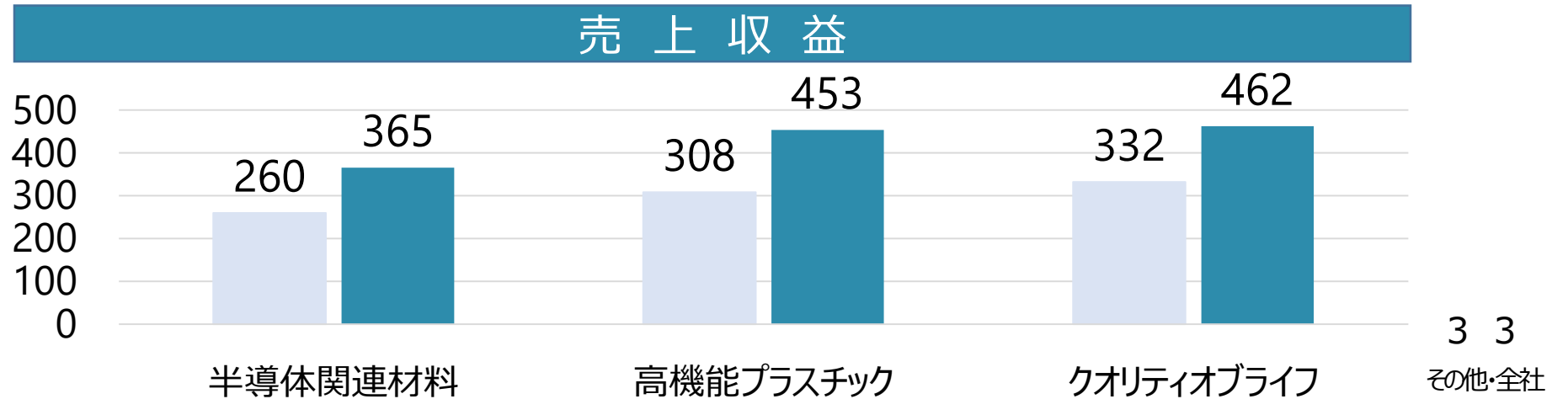
補足) 川澄化学：2022年3月期第2四半期実績

売上収益：105億円 事業利益：7億円

為替レート	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期
USD (\$/¥)	106.68	110.18
EUR (€/¥)	121.36	130.97

事業セグメント別業績比較 (前年同期比)

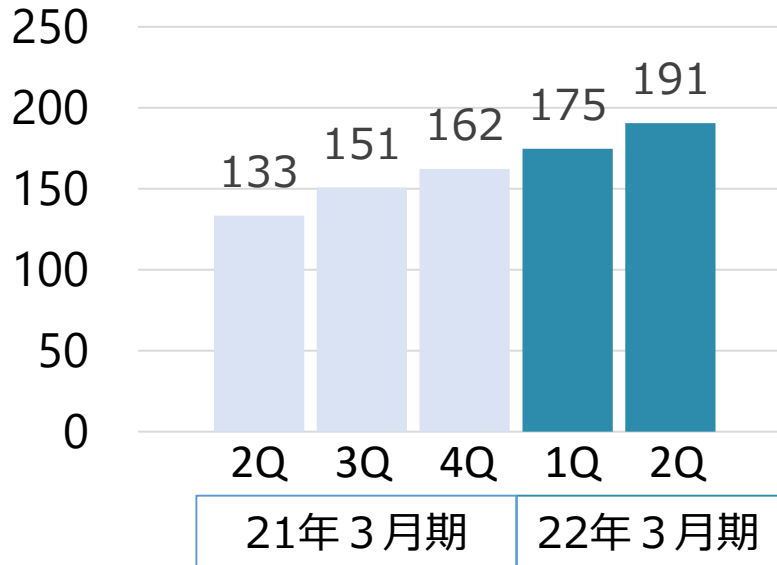
(金額単位：億円)



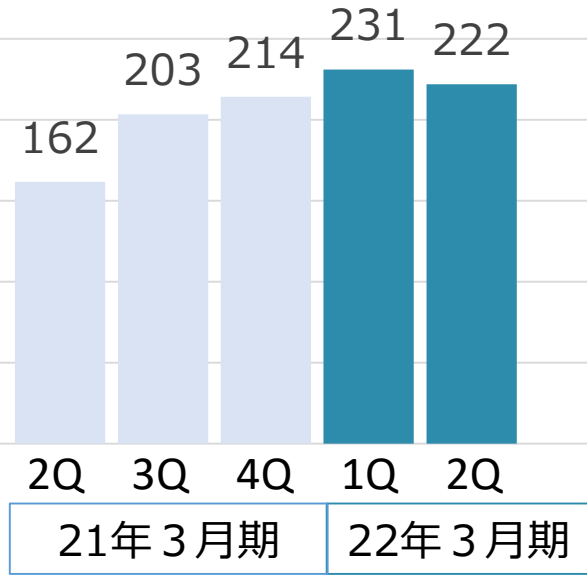
事業セグメント別 四半期販売推移

(金額単位：億円)

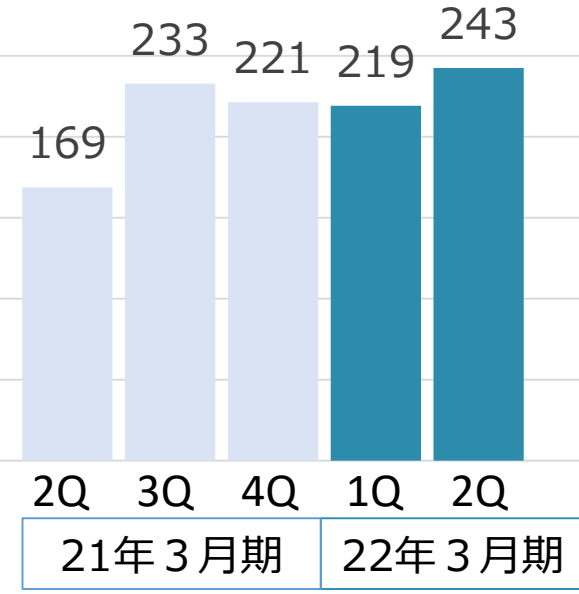
半導体関連材料



高機能プラスチック



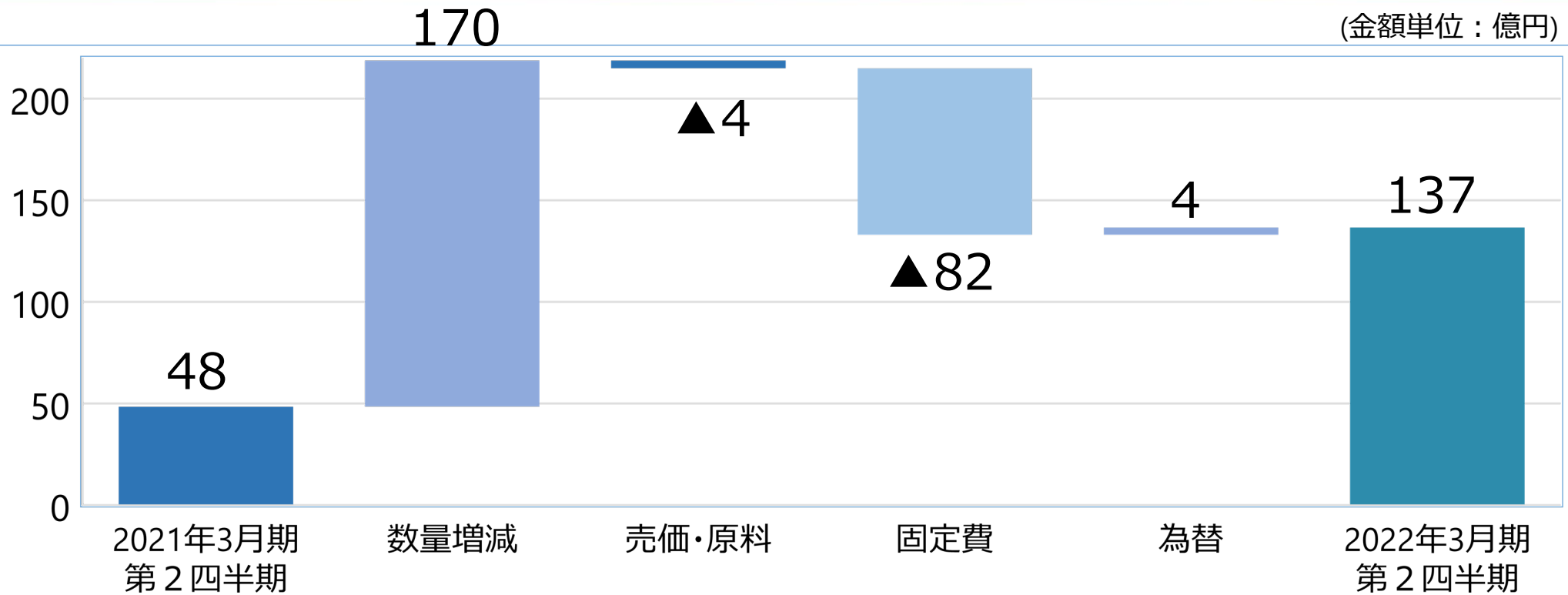
クオリティ オブ ライフ



- 半導体関連材料 封止材は世界的な半導体需要の拡大に伴い、売上収益の増加傾向続く。
- 高機能プラスチック 自動車生産・販売の回復に加え、中国市場の電子・電機用も好調に推移。欧米夏季休暇による影響もあり、売上収益は2Q単独で1Qより若干減。
- クオリティオブライフ 川澄化学の新規連結に加え、フィルム・シートは医薬品用の回復および産業用も半導体需要に牽引され好調。

事業利益増減要因 (前年同期比)

(金額単位：億円)



セグメント別	数量増減	売価・原料	固定費	為替	合計
半導体関連材料	43	7	▲9	1	42
高機能プラスチック	52	▲8	▲9	2	37
クオリティ オブ ライフ	74	▲3	▲61	0	11
その他	0	0	▲3	0	▲3

2022年3月期（2021年度） 通期 業績予想

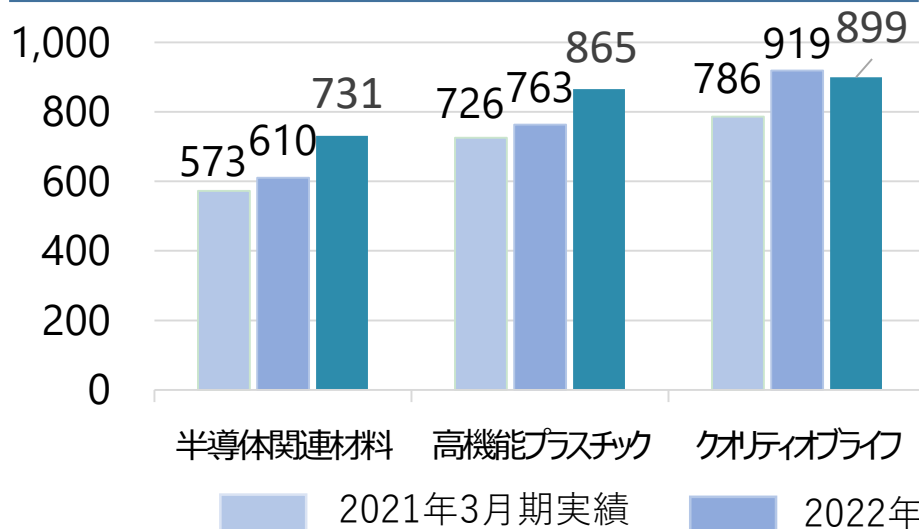
2022年3月期 通期 連結業績予想 (前回発表予想比)

(金額単位：億円)

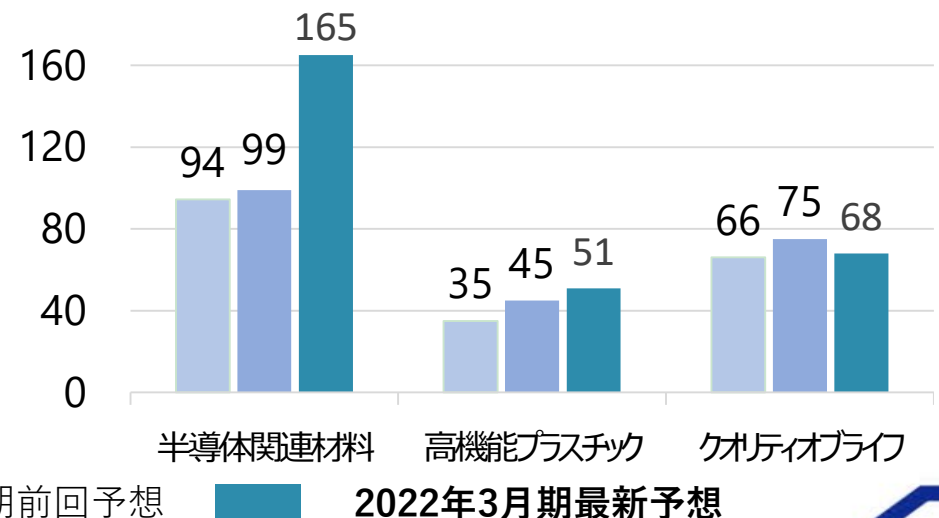
	2021年3月期	2022年3月期	2022年3月期	前回発表予想比較	
	実績	前回発表予想① ※5月17日発表	最新予想② ※10月27日発表	金額 (②-①)	増減率
売上収益	2,090	2,300	2,500	200	8.7%
事業利益	166	190	250	60	31.6%
当期利益	132	145	176	31	21.4%

※「事業利益」は「売上収益」から「売上原価」、「販管費及び一般管理費」を控除したベース。「当期利益」は親会社所有者に帰属する当期利益

セグメント別売上収益



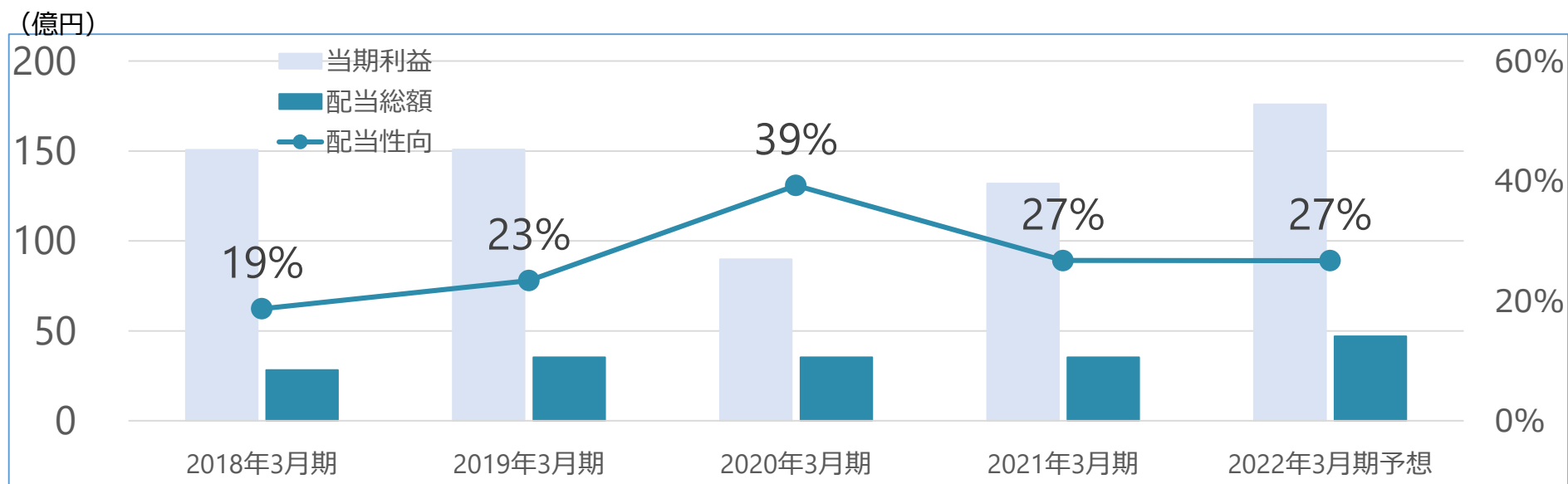
セグメント別事業利益



配当

2021年10月27日発表

- 配当予想 (2022年3月期) : 100円/株 (中間50円・期末50円)
- ※前回5月17日発表 : 90円/株 (中間45円・期末45円)



【配当金(円)/株】

	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想
中間配当	30.00	37.50	45.00	30.00	50.00
期末配当	30.00	37.50	30.00	45.00	50.00
年間配当	60.00	75.00	75.00	75.00	100.00

※2018年10月に株式併合(5株 ⇒ 1株)を実施したので、併合後ベースで表記。

重点施策進捗

本中期における主要施策

Vision

「未来に夢を提供する会社」

中期基本方針

機能性化学分野で「ニッチ&トップシェア」の実現

新しいビジネスモデルへの挑戦

組織カルチャーの進化

経営
基盤

組織横断



研究開発
マーケティング機能
ものづくり基盤



挑戦する文化の醸成
人事制度見直し
働き方改革

DX

重点
施策

- ①成長領域への積極投資
- ②環境分野への布石
- ③低迷事業のテコ入れ
- ④BCP対応

数値
目標

売上収益:2,500億円・事業利益:250億円・ROE:10%

SDGsへの貢献（カーボンニュートラル）

カーボンニュートラルへの取り組み

ネットゼロに向けた挑戦

2030目標

CO2排出量 **46%削減**(2013年比)

省エネ・MFC活動・プロセス効率改革
再生可能エネルギー導入

2050目標

カーボンニュートラルに挑戦

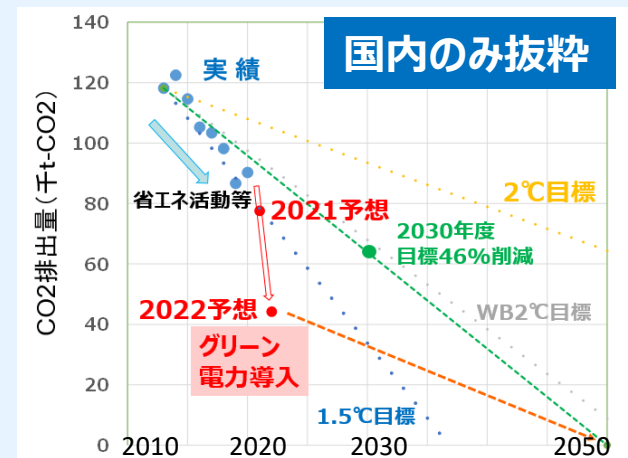
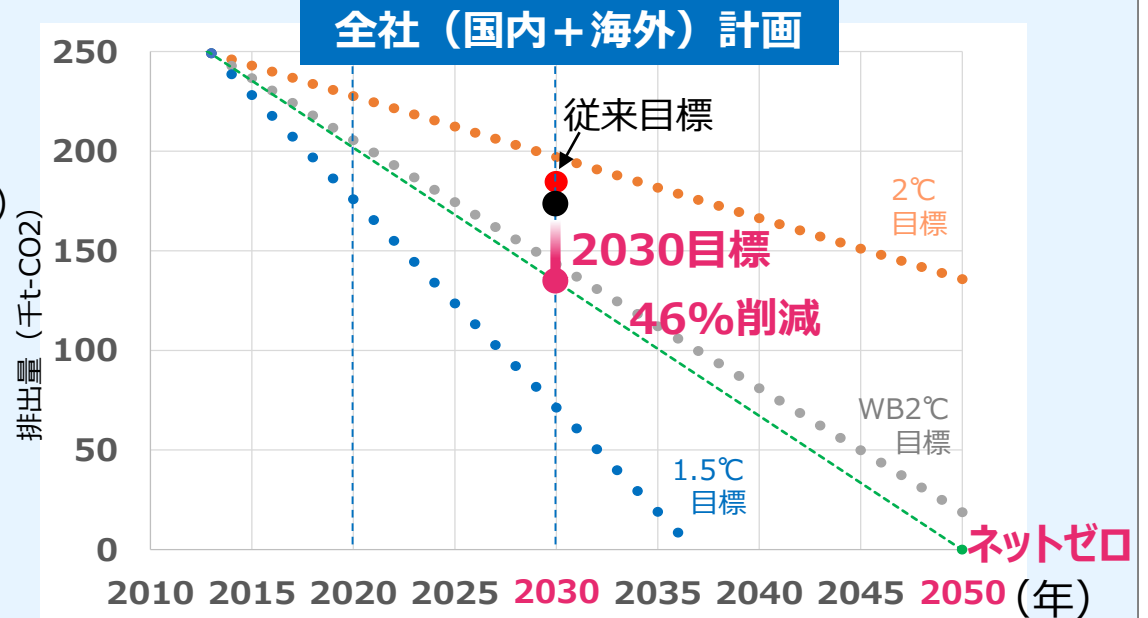
新たな燃料転換技術の積極的採用(水素等)

2022年1月～

国内の工場・研究所をグリーン電力に切り替え
2013年比60%以上の削減見込み

2030年の国内目標を前倒し達成

※再生可能エネルギー由来の電力(水力・地熱・太陽光・風力・バイオマス)



先端から汎用材まで拡販によるシェアアップ進展

中長期的な半導体成長シナリオは変わらず

従来市場：P C、スマホ、家電

新たな市場：データセンター、電動車、スマート機器

**100兆円
市場に成長**

(2030年：当社推定)

■さらなる需要増に対応した生産能力増強

- ・台湾工場：生産能力2倍増（2023年稼働予定） **NEW**
- ・中国工場：生産能力1.5倍増（2022年1月稼働開始）
- ・欧州地区：モビリティ材料（ECU材）新ライン設置（2022年3月稼働開始）
- ・北米地区：モビリティ材料（モーター材）新ライン検討（2022年以降）

■5G・DX時代に対応する高機能材料展開

- ・先端パッケージ向け材料の開発
MUF（モールドアンダーフィル）材、圧縮成形用顆粒材
- ・次世代高速通信向け⇒誘電特性制御、光回路材料

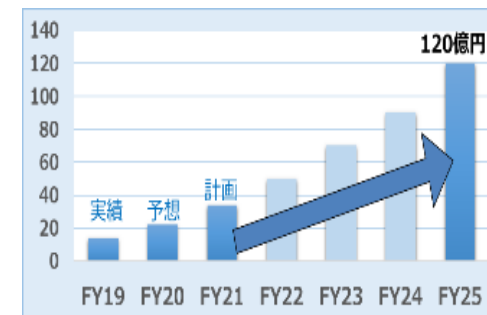


台湾住友培科股份有限公司

電動化進展へ新たなソリューション提案

■モビリティ分野戦略 3 製品の採用加速

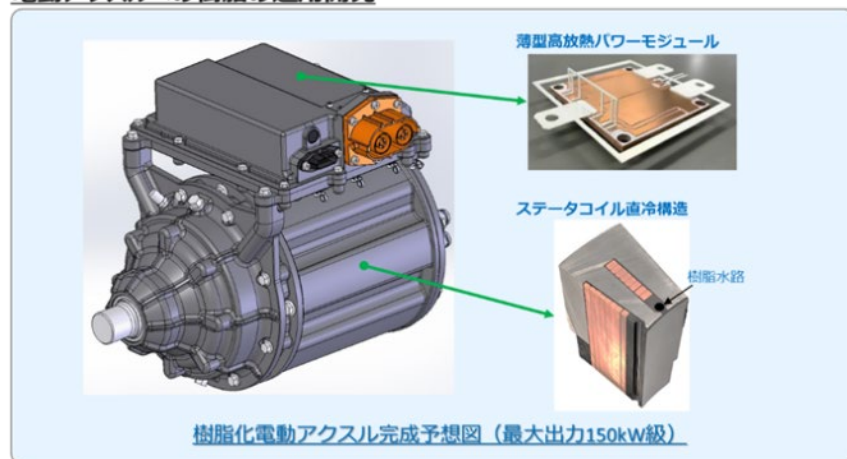
- ・モーター磁石固定用：日米欧中韓他WW展開進展
- ・E C U一括封止材：欧州向け大口販売開始
- ・パワーモジュール封止材: SiC、GaNデバイス向け高耐熱材



■NEDO脱炭素省エネプログラム「電動アクスルへの樹脂の適用開発」採択

- ・150kWの樹脂化電動アクスルを組立予定。顧客価値を実証・具現化支援

電動アクスルへの樹脂の適用開発



開発テーマ

- ①ステータコイル直冷構造
- ②薄型高放熱パワーモジュール
- ③樹脂筐体（インバータケース、モータハウジング）
- ④高速回転可能なロータの開発
- ⑤電動アクスルの評価技術

製品ポートフォリオ変革により、成長市場へ注力

■ 既存製品のシェア拡大

- ・グローバル連携強化 (横串チーム) : ブレーキピストン材・摩擦材・タイヤ用途
- ・地域戦略の強化 (中国) : トランス用ボビン材他、(欧州) : EV化対応大型成形品他

■ 市場の変化を先取りした成長戦略

・電動化(EV)への対応

コイルエンド材、IGBT用注型材、高寸法精度材「SiON®」
サーマル・マネジメント(放熱材)

・半導体・ディスプレイ関連レジン(樹脂)

高機能・高精細表示体用ベース材(カラーフィルタ、レジスト等)

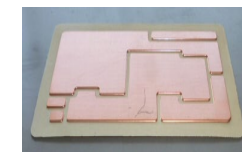
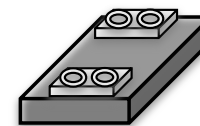
・環境対応フェノール樹脂

植物由来材(リグニン変性)、低VOC材(完全水溶性材、シート材) ※VOC : 揮発性有機化合物

■ 停滞市場への対応

- ・航空機内装部品 → 市況回復途上、欧州OEへの取組み強化、固定費削減継続
- ・紙フェノール銅張積層板(民生機器用) → 生産販売終了(~2022年9月)

エポキシ樹脂注型材 放熱基板材料
ともに車載高耐熱用途に展開



高寸法精度材「SiON」
電動パワステを金属代替



機能性を向上させ、さらなる新規事業領域拡大へ

■ 機能性フィルムで事業領域を拡大 (フィルム)

- ・食品スキンパック市場の創造
ブランド化戦略推進 ⇒ 大手スーパーへの採用進展
- ・産業用フィルム：中国半導体・電子部品向け拡大



スキンパック包装
生肉の消費期限が大幅延長し、
フードロス削減に貢献

■ 環境対応フィルムの開発 (フィルム)

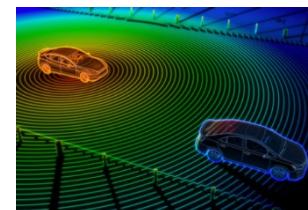
- ・モノマテリアルフィルムの市場投入
- ・バイオマスPTP医薬品包装シート拡販



モノマテリアルフィルムの層構成
多層フィルムのモノマテリアル化
によるリサイクル性向上

■ ビジネスモデルの変革(産機・防水)

- ・光学用途グローバル展開
アイウェア：欧州向けサングラス用偏光板
モビリティ：HUD (ヘッドアップディスプレイ) 展開、ADAS関連開発
- ・多機能屋根材「スミルーフ」：工期短縮効果あり、ゼネコン注目



**抗ウイルス・抗菌
飛沫防止パネル**
(21年10月販売開始)



軽量高耐熱耐火ルーフィングユニット
スミルーフDN
防水性能をプラスした断熱銅板屋根

診断～治療を担う総合ヘルスケアメーカーを目指し、事業再編

- **S Bカワスミ発足** (2021年10月)
(住友ベークライトと川澄化学の医療機器事業統合)

⇒ **医療機器業界でのプレゼンス向上**

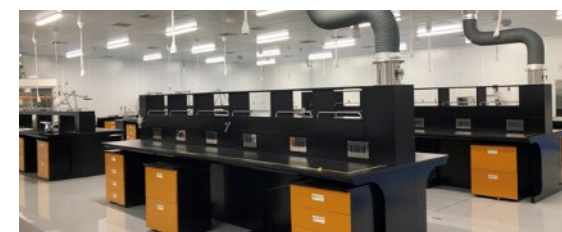
【研究】低侵襲治療分野の新製品投入

【営業】病院向と企業向に営業組織再編

S Bカワスミ新本社・殿町メディカル研究所
川崎市の国家戦略特区キングスカイフロントに立地



正面玄関



実験室

双方の拠点・人的リソースを活用しシナジー創出

■ バイオ事業の拡大

- ・新型コロナウイルス検査関連製品の販売好調
- ・S Bバイオサイエンスを吸収合併 (2022年4月)
⇒ 診断薬事業を本体に取り込み



マイクロ流路チップ



検体輸送用セラムチューブ